

透析患者の入院を考える

川島 周

最近私が日常の診療の場で感じていることを率直に述べさせていただきます。

何よりも病院を運営するにあたり当院で一番困っている問題は病床の確保です。こう言う話はいささか個人的すぎるし、他の先生方への配慮という点では誤解を招くおそれが十二分にあるかもしれませんがあえてこの問題を取り上げさせていただきます。

我々としては一度自分の病院で導入して「つながり」のできた患者さんの透析はできるかぎり自分の病院で行いたいと考えておりますが、こういう日常なことすら難しくなっているのが実状です。原因としては透析患者数の増加と許可病床数のアンバランスにつきると考えられます。当院としましては導入患者さんの早期退院を指導し、また可及的に導入期以外の入院を減らし透析患者さんの入院率を平均10%前後に保つように心がけておりますが、なんといいましてもこの10%の絶対数の増加対策に苦慮いたしております。

第一番目の対策としてCAPDを考え積極的に取り入れてみましたが、結果的には予想以上に入院率が高く（平均15～20%）少なくともこの点に関しては有効な手段ではありませんでした。第二番目の方法としましては近隣の有床診療所の先生に比較的軽症の患者さんの転医をお願いし、透析については当院にて通院透析を行うことを実施いたしました。しかしながら、この方法も種々の問題があり決して有効な解決策とは思えません。

当県では老健施設が極端に増加したこともあり、地域医療計画に基づく増床の認可は当分望めそうもなく現段階では抜本的解決策はないと思われまます。

やはり私自身としましては以前から透析医会

でも行われているように、現在の法の別枠か何かで慢性透析患者さんを収容する施設の設置ができるよう関係各省庁への働きかけをより一層積極的にすべきと考えております。

この件につきましては全国腎臓病患者連絡協議会も積極的に運動を展開しておりますし、またこのままでは透析医療の沈滞化を招く可能性が十分に考えられますので私は事態をきわめて深刻に受けとっております。

透析医会としましては診療報酬の問題や医療用廃棄物の問題など数多くの問題を抱えており理事の先生方のご苦勞には常々敬服いたしておりますが、何卒私の提案も御配慮をいただきたいと御願ひする次第でございます。